

TIJ 日本語教育研究会通信

No.61 2016.10.5 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 / Fax:03(5607)4102
E-mail tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



今年は台風がいくつも日本列島を通過し、TIJも一日休校になりました。温暖化の影響がいろいろなところに出てきていますね。

設立 25 年目の 2016 年度、TIJ もついにベトナム人学生の人数が一番多くなりました。2 番目に多いのがスリランカです。ベトナム人は概して真面目で、漢字や文法など熱心に勉強していますが、日本語とベトナム語の言語間格差が大きいからか、会話の上達がなかなかむずかしいようです。逆にスリランカ人は、シンハラ語が日本語と語順が同じだそうで、会話の上達は目覚ましいものがあります。反面、漢字の習得にはてこずっているようです。

今年も日本語教育振興協会主催の日本語学校教育研究大会が夏休みに開催され、TIJ から 4 人参加しました。また 7 月には、ベトナムから中学生高校生の短期留学を受け入れました。早稲田大学の学生さんとの交流会も続けています。実習コースの修了レポート、獨協大学生の教育実習修了レポートも今号に掲載しました。

【本号の内容】

1. 2016 年度日本語学校教育研究大会参加報告
2. ベトナムからの短期留学生を迎えて
3. 早稲田大学生との交流授業—初中級クラスの報告
4. 実習コース修了レポート
5. 大学生の教育実習修了レポート

2016 年日本語学校教育研究大会参加報告

今年も日本語教育振興協会主催の日本語学校教育研究大会が開催されました。今年は8月22日、23日の開催で、すでにT I Jは授業が始まっていたので、T I Jからの出席者は例年より少なく、教師が3名、事務が1名でした。徳倉理事長が大会準備委員をやっていて、準備はもちろん、当日も縁の下であれこれ運営に関わっていました。今年の大会テーマは「新しい日本語学校教育の質のかたち—これからの教員を考える」ということでした。

基調講演の報告

第一日目の基調講演として、筑波大学グローバルコミュニケーション教育センターの今井新吾先生より「日本語教師はもういない？教育環境の変化と求められる教師像」というタイトルのお話がありました。その講演内容をかいつまんでご報告します。

—「日本語教師はもういない？教育環境の変化と求められる教師像」—

このお話は次のようなレジюмеに沿って行われました。

1. **Computer** が人を超える
2. **Computer** が日本語を教える
3. **Computer** が日本語能力を評価する
4. 自立する学習者
5. 将来の日本語教師像

【**Computer** が人を超える】

知識はコンピューターの方が人より多く持っている。ロボットは肉体労働だけではなく、ホワイトカラーの仕事も奪い始めている。しかし、日本語講師はロボットにとってかわられる可能性は低い。ただし、教育分野に人工知能が進出してくるのは2020年より早いだろう。

【**Computer** が日本語を教える】

e-learning には以下の3種類がある。

- ① 遠隔教育（教師あり）スカイプ授業など
- ② **Blended learning**（教室活動の補完）ドリル学習、予習などにコンピューターを使用
- ③ 自律型ラーニング（自立、自律学習）教室活動ではない。教師はいない。

Rosetta Stone というナチュラルアプローチの e-learning system の紹介。

いろいろな言語版がある。すべての言語に同じ写真を使っていて、文化差がない。

筑波大学日本語 e-learning の紹介。

教師の代わりにバーチャル画像が文法説明をする。

練習問題では、学習者が間違ったときは、合図がありやり直すことができる。

【Computer が日本語能力を評価する】

J-CAT (Japanese Computerized Adaptive Test) 日本語適応型テストの概要説明。

このテストは正解を選ぶとすぐ評価点が出る。また学習者の能力に合わせて問題内容を変えることができる。

【自立する学習者】

- ① 学習者中心の教育—教師はファシリテーター
- ② 学習者自律の授業
- ③ 自律的学習—教師はアドバイザー

Autonomy—自分自身が決めていく能力。教師の仕事は環境整備、アドバイジング

【将来の教師像】

教師はネットでアドバイザー。学習者は教室に来ない。

【最後に】

I C T (情報通信技術) のできないことは—創造性、柔軟性

これからの私たちに必要なことは—ICT の共存、学習者との共存、多様な学習スタイルの容認、学習者の自立・自律の促進

(講演を聞いて)

これからは、日本語教育にもどんどんコンピューターが使われるようになり、それに伴って学習者は自律学習をするようになる。そして教師の役割はアドバイザーになるということ。日本語教師をはじめ、教育の仕事が完全にコンピューターに取って代わられるということはないとのことですが、今教壇に立って教えている私たちが、時代の流れに沿って変わっていきけるのか。e-learning を取り入れる、e-learning 教材を作成するなど、変わっていくための準備を少しずつ始めなくていけないのでしょうか。しかし、言葉の習得には、最終的には人とコミュニケーションすることが不可欠であるということは、一つの信念として肝に銘じたいと思います。いろいろな意味で示唆に富むお話でした。

パネルセッション

一日目の午後には「日本語教員の質・量を考える」というタイトルでパネルセッションが行われ、4名のパネリストから、それぞれの立場からの説明、指摘、提案などがありました。ベトナム、ネパールからの留学生の急増で、現在日本語学校は空前の教師不足

に見舞われています。また、内容的にも、教育方法から生活指導方法まで、今までとは違った新たな対応を求められています。教師の量を確保しなければならないけれども、質を落としてはいけないという現実の中で、どのようにこの難題を克服していったらよいか、パネルセッションを聞く中で、いくつか印象に残ったことを報告します。

○新卒の教師を獲得するための方法

- ・インターンシップ（教育実習時期より早く）
- ・ビジターセッション
- ・イベントの手伝いをやってもらう

○現職教師の能力をアップさせるための方法

- ・学校内でお互いの授業を見学し合う
- ・研修会への参加を促す
- ・教師の力を向上させるためのしくみを考える

一日目はそのほかにポスター発表、デモンストレーション、「2016年度日本留学アワード」の結果発表及び表彰式が行われました。2日目は、4つの分科会とプロジェクト発表、自由研究発表が行われました。

広瀬万里子 (TIJ)

日振協研究大会出展 eラーニング教材のご報告

日本語教育研究大会に出展された e-learning 教材で見学したものから一部をご報告いたします。

1. A株式会社

概要：(1) 外国人のための日本語能力試験学習 e-learning コンテンツ

入門編、漢字編、N5、N4、N3、N2コース（N1は作成中）

すべてに小テストあり

各コースには文法、読解、語彙編あり

各編の会話ダイアログや例文には英語字幕あり

サンプル動画視聴 <https://www.youtube.com/TalkInJapan>

(2) 外国人社員のための日本語教育 e-learning コンテンツ

「勤学.tv」 ソフトウェアやビジネス知識をオンライン学習できる教育研修サービス。クラウド型のオンデマンドストリーミング配信なので時間・場所に束縛されずに勉強できる

体験：JLPT N5 レベル聴解 バーチャルクラス

第2回 2016年9月15日 10:00～ TIJの教師2名が参加

クラス構成：

① 聴解問題の構成説明とアドバイス

答えに迷ったらそこにこだわらず時間をかけない

否定形・逆説・省略された名詞等に気をつけるように等

- ② 課題理解 イラストあり、スピードは遅め、日本語と英語の解説あり
- ③ 発話表現 ②と同様
- ④ 即時応答 ②と同様
- ⑤ チャット 質問受付

体験感想: 分かりやすいイラストで集中力は維持できるようになっている。講師(中国人)が丁寧な解説を英語と日本語で行なっていたが、日本語の発音に少々問題あり。

2. B株式会社

概要: 来日前の日本語レベルを高める、オンライン日本語教育プログラム

e-learning とオンライン授業でN5～N3レベルが勉強できる

ケース1 来日前はB社が研修を提供

ケース2 システムと **e-learning** 等の教材はB社が提供

オンライン授業は **SmartJBasic** のカリキュラムで、日本語学校の教師が担当(来日前から日本語教師の顔に親しむことができる)

ケース3 オンライン授業の設定、運用のみをB社が提供

日本語学校のカリキュラムで日本語教師が授業を担当(来日前から日本語学校のやり方・雰囲気慣れる)

感想: 日本語学校のカリキュラム・教材で来日前から授業を進められれば、来日後もスムーズに学習ができて理想的だと思う。オンライン授業用の動画作成等の時間をどこで取るかが課題だと思う。

e-learning の重要性は高まっているので作成・使用等に前向きに取り組んでいきたい。

北内直子(TIJ)

ベトナムからの短期留学生を迎えて

夏学期が始まってすぐ、TIJにベトナムから輝く瞳の子供達8名がやって来た。最年少は10歳、一番年長は高校2年生だ。この短期留学は、午前中は教室で日本語を学び、午後は教室内や外に出かけて日本文化を学んだり体験したりするというカリキュラムである。

彼らとの最初の授業の日、旅の疲れが出たのか男子学生が寝坊してしまい、予定時間を30分ほど過ぎてから登校してきた。男子4名、女子4名、そして付き添いのズン先生は申し訳なさそうに教室に入ってきた。リーダー格の男子学生の大きなかけ声とともに授業は始まった。「起立! 礼! おはようございます。先生、どうぞよろしくお願ひし

ます！」と全員揃って元気よく、そして丁寧なご挨拶をしてくれた。

この日の日本語学習の予定は、時間や日にちだったのでカレンダーやカードを使って練習した。彼らは、ベトナムの日本語塾で日本語を勉強している学生だけあって、初級程度の語彙も文法も知っていた。休憩時間後は、色の名前を紹介した。それから小さめに切った折り紙とA4サイズの画用紙を配り、画用紙に好きなように折り紙を貼って名前を書き込む作業をした。みんなとても集中して工夫をこらして、それぞれ個性的な色のチャートを作った。この日、午後の授業では七夕の笹を飾り付けた。本校舎と新校舎用の笹2本にカラー折り紙を輪にしてつなぎ合わせた鎖などで飾ったあと、短冊に思い思いに願い事を書いて笹に結びつけた。最後に一人ずつの写真を撮って終了した。



この短期留学の期間中、アクティビティーの日として朝から1日かけてあらかじめリクエストのあった観光地に行く日が何日かあった。東京スカイツリーやお台場、東京ディズニーランドへ行った。私はディズニーランドに同行した。朝早くから暑い日だったが、彼らはとても元気よく、いろいろな乗り物に乗った。次に会った時話を聞くと、夜まで楽しんだと言っていた。

また、日本文化を体験する日には、担当の先生方から茶道や書道を学んだり、お手玉やけん玉、おはじきなど昔ながらの遊び道具を使って遊んだりする時間もあった。彼らは、毎日日本語で日記をつけていた。授業の日、教師は前夜に学生が書いた日記のチェックをした。土曜、日曜の学校が休みの日は富士山の近くまで遊びに行ったり、アウトレットに買い物に行ったり、温泉に入ったり、いろいろな経験をしたようだ。子供たちが楽しんだ様子は、その日記から読み取ることができた。滞在中、日記の文章は日に日に上手になった。毎日、書きたいことがたくさんあったようだ。最終日にはスピーチを書いて発表することになっていたもので、前日の授業では、形容詞の過去形や動詞の過去形を確認した。

いよいよ最終日、一生懸命に書いたスピーチは皆とても上手に書けていた。恥ずかしがっていた子もいたが、全員堂々と前に立ち発表することができた。発表後、一人ずつ広瀬先生から修了証を受け取り、自信に満ちた笑顔で記念写真を撮った。最後は、お茶やお菓子を食べながらお別れ会をした。みんなと一緒に日本語の歌を歌ったり、ベトナムの歌を聞かせてくれたりして楽しい時間を過ごした。

彼らはスピーチで、「日本が大好きです。」「また日本に来たいです。」と言っていた。

ほぼ全員がそう言ってくれていた。私はその言葉を聞いて、素直に嬉しかった。短期間に勉強やアクティビティーなど盛りだくさんの予定が入っていたので、本当のことを言うとても心配していた。この猛暑の中で疲れてはいないか、体調を崩してはいないか、ホームシックになってはいないかと、ずっと気にかかっていたのだ。すべてが順調に進み、今回の短期留学が彼らにとって最高の思い出になるようにと心の中で祈っていた。スピーチをしている姿を見て私の不安は消え去った。スピーチを終えた彼らの顔つきは、初めて会った日よりたくましく見えた。そして笑顔とともにその瞳は、さらに輝いていた。

吉松眞弓 (TIJ)

早稲田大学生との交流授業

初中級クラスの報告

2016年8月25日(木)に初中級のクラスで早稲田大学の学生4名を招いて交流授業を行いました。TIJの学生は11名が参加、4グループに分かれて、1グループ3~4名で会話をしました。テーマは3つあり、1つのテーマを20分ぐらい話したら、大学生の方々に時計回りに席を変わってもらい、できるだけたくさんの留学生と会話をしてもらいました。

話す内容は現在の生活について話してもらうために3つの質問を大学生や留学生に聞いてみました。

1つ目は今までどんなアルバイトをしたことがありますか?という質問にチョコレート工場チョコレートを詰める作業をした大学生さんがいました。しかし単純作業なので自分がロボットになった感じがして辛くてやめたそうです。これは留学生も気持ちがよくわかると頷いていました。

2つ目は今の生活で楽しいことや大変なことはありますか。という質問をしました。大学生のみなさんの回答はアイドルが好きなのでよくコンサートに行く、喫茶店でコーヒーを飲みながら本を読む、実家に帰るなど、自由に生活を楽しんでいるようでした。留学生からは今の生活はあまり楽しくないという学生もいましたが、日本の生活にだいぶ慣れて日常生活を楽しんでいる学生も多くいました。

3つ目は将来何をしていたいか聞いてみました。留学生はまだ決まっていない人がほとんどでした。大学生の皆さんは決まっていない人もいましたが、エディターになりたい人、自分の希望と家族の希望が違うので少し悩んでいるという人もいました。

最後に少し時間があつたので、大学生の皆さんに語学学習の勉強方法について聞いてみました。大学生の皆さんは英語などの単語を覚えるときは新聞を読む、漢字は書くだけでなく、口で言って目で見ると五感を使って覚えるなどしているそうです。また、同じ問題を何度も繰り返しやって覚えると言っていました。結局暗記は何度も繰り返し行わなければならないが、やり方を自分なりに楽しく工夫すれば飽きずに続けられることがよくわかりました。



交流会が終わって留学生に感想を聞いてみたら、話が全部わかったわけではないがよかった。こんなチャンスがもっとあったらいい。大学生と話すのは思ったより難しかった。などいろいろ言っていました。普段はおとなしいクラスですが、みんな会話を楽しみながら自然と言いたいことが言えて、とてもよかったと思いました。交流会から数日後、一人の学生が「最近、新聞を読み始めました。日本の新聞は内容が多いですね。」と話してくれました。この話を聞いて改めてこのような場の必要性を感じました。

(TIJ 山西麻理)

実習コース修了レポート

杉浦裕以

私は、今年の4月に民間の学校で日本語教師養成講座 420 時間コースを修了し、将来は日本語教師として勤務することを考えております。しかし、実力不足、経験不足を痛感し、就職前により一層の実習の勉強をしたいと思い、T I Jの実習コースを受講いたしました。日本語学校の授業を見学するのは初めてで、とても新鮮な気持ちで見学させていただきました。私は、養成講座を終えたばかりで、導入や練習内容を考え、授業の流れを決めることさえ大変に感じておりました。そのため、基本的なことですが、授業をどのように構成するのか、また、わかりやすく楽しい授業にするためにはどうするのかを主に意識して見学させていただきました。

授業は、日常の場面や話題を提示しながら新しい文型を導入し、自分のことや身の回りのことを話す場面シラバスで、文法シラバスしか勉強したことのない私には新鮮でした。授業の目的が明確で構成が分かりやすく、かつ、学習者の記憶にとっても残りやすい内容だと思いました。また、自分のことを話す練習の際には、発話内容がさらに発展することも多々あり、授業の最後には個々の学習者の様子が自然な形でクラス全体で共有されていました。

授業見学で私なりに勉強させていただいたことをまとめます。その第一は、練習が非常にテンポよく進められていることです。新しい内容もテンポよく導入され、学習者は常に集中していました。第二に、一方的に教えるのではなく、学習者とともに授業を作り上げていくことです。先生方は、分かりやすいことばで常に問いかけながら目標とする方向へリードし、学習者から適切な文型や表現が出てきたときは積極的に褒めるようにされていました。また、学習者の理解度も常に確認し、時には具体的な例を複数示し理解できるようにされていました。第三に、学習者を話したい気持ちにさせていることです。特に、導入では、生活の中の具体的な場面や話題を提示することにより、学習者のイメージを膨らませ、十分にイメージが湧いたところでその場に合う表現を導入されていました。その流れはとても自然で、学習者は自然に話したい気持ちになり、授業が楽しく進んでいく様子でした。例えば、可能形の導入では、自分のスケジュールと面接の日程を提示して状況のイメージをしっかりとさせた上で「面接に行けます／行けません」を導入し、学習者を話したい気持ちにさせていました。学習者を話したい気持ちにさせることは、授業の根本だと痛感し、今後の授業では必ず心がけたいと思いました。

実習では、これらの授業見学で勉強させていただいた点を生かそうと努めましたが、十分に生かすには深い分析とさらなる経験が必要だと感じました。また、毎回の実習では、色々な反省点がありました。抑揚のない平坦な話し方のため学習者の注意を引けなかったこと、指示が曖昧でリピートがバラバラになってしまったこと、語彙の説明に準備した例示が分かりづらかったこと、一生懸命進めているつもりでも授業が単調になってしまい、その雰囲気を変えることができなかったことなどです。しかし、毎回15名前後もの学習者を前に実習できたことは、とても勉強になりました。実習で勉強させていただいたことをまとめます。

第一に、授業見学での感想と重複しますが、学習者を話したい気持ちにさせることです。日常生活のどんな場面でその文型を使うかを考えること、特に、教師が自分の経験に基づく具体的な例文を示すことにより、学習者は強く興味を示す様子でした。簡単な文型でも日常のどんな場面で自分が使っているかを考え、学習者が理解できる適切な例文を示すのは意外と難しく、日頃から言葉の使い方を意識し、観察することが重要だと感じました。

第二に、学習者の話に興味をもつことです。単に質問する、言ってもらうのではなく、コミュニケーションする気持ちを持ちながら具体的な話を聞いたり感動を示したりすることで、授業に活気が生まれると思いました。毎回の実習にはコミュニケーションする気持ちを持って臨んだつもりですが、学習者の話を受け止める力がまだまだ弱く、形式的な返答しかできなかつたと反省しています。授業見学で見せていただいた、学習者の発話を発展させ、学習者の様子が自然にクラスで共有されているような授業をしてみたいと思いました。

第三に、メリハリのある授業にすることです。授業見学の際にも感じたことですが、先

生方は、当て方を工夫したり、絵カードの練習と個人の経験を言う練習とを交互に行ったり、時には、教科書にないものの学習者に身近なことの語彙・表現を導入したり、単調にならないよう絶えず変化をつけていらっしやいました。また、メリハリをつけるために、個々の練習を何のために行っているかを意識するのも大切とのことでした。教師が練習の目的を意識すると学習者にも伝わり、学習者はより真摯な態度で臨むようになります。私は、教案の流れを進めることをつい念頭に置いてしまいましたが、今後は、個々の練習の目的を意識し、学習者の成長を考えるよう努めたいと思います。さらに、教案通りに進めるのではなく、クラスの雰囲気を観察しながら臨機応変に対応することも、クラスのテンションを保つために大切とのことでした。実習の準備の段階でいろいろな場面をシュミレーションしてみたのですが、実際の授業では、雰囲気を見ながら対応するのはやはり難しく、まだまだ経験が必要だと感じました。

第四に、授業を通して自分で気づくことが最も大切だということです。実際の現場では、毎回の授業から自分で学び、成長しなければならないことを考えると当然のことですが、自分の欠点には目を背けたいものです。しかし、実習を通して自分と向き合う努力が大切であることを改めて痛感しました。

T I Jで学んだことは授業の神髄となることばかりで、勉強できて非常に幸せだと思いました。私は、最近、日本語教室のボランティアを始めました。数名の学習者を対象にした授業ですが、T I Jで勉強させていただいたことを活かすチャンスだと考えております。細々としたクラスですが、少しでも実践の経験を積み、また、日頃から言葉のアンテナを張り知識を蓄積するよう努力し、将来、日本語教師として教壇に立つことができると考えております。

最後になりましたが、快く授業を見学させてくださった先生方、そして貴重な助言をくださりご指導くださった先生方に、心から感謝申し上げます。

大学生の教育実習修了レポート

今年も 9 月上旬から中旬にかけて獨協大学の学生さんが教育実習にいらっしやいました。若い方の新鮮な気づきに私たち T I J の教師の方が刺激を受けています。お二人の修了レポートを掲載します。

獨協大学 川津真梨奈

初めて実際の日本語教育の現場を体感して感じたことが大きく 2 つあります。

1 つめは、日本語教育の現場は決して言語としての日本語を教えるだけの場ではないということです。それまでの私の勝手な日本語教育の現場に対するイメージは、いわば日本人が英語教室に通うようなものの延長にすぎませんでした。もちろん、大学で日本語教育に関する授業や、同じく日本語教育を学んでいる学生を相手に模擬授業を行った

ことはありました。しかしながら私の大学での専門分野が経済学ということもあり、実際に日本語を学んでいる非母語話者の方と活動する機会は全くと言っていいほどありませんでした。そのためどのようなことが実際の教育現場で行われているのかということ、恥ずかしながらほとんど知らぬまま実習に臨みました。そして今回の実習によってそれまでの私のイメージは見事に覆されました。学校には留学生はもちろん、ご両親の仕事の都合で日本にきた高校生の方や、主婦の方、仕事をされている方など、国籍や言語はもちろん本当に様々な方がいらっしゃいました。そういった方々に日本語を教えることはもちろん、アルバイトや引っ越し、日本での悩み事の相談にいたるまで、生活に関わるあらゆることがサポートされ、学生にとっての拠り所となっているということ強く感じました。

2つめは、TIJの素晴らしさ、そして先生方の偉大さについてです。2週間の実習を終え、改めて日本語を教えることの難しさを痛感しました。特にTIJでは、学習段階に関わらず、きちんと使える日本語を常に念頭において授業が行われていたことにとっても感銘を受けました。本来の学習はそうあるべきだと思うのですが、何かを教えようとすると、どうしても形式的になってしまう傾向にあると思います。今回の実習では初級から上級まで本当に様々なクラスを見学させていただいたのですが、どのクラスでも学習者の意見や知りたいという好奇心を引き出す工夫がなされていました。特に中・上級では臓器移植や救急車の有料化、地震など日本人でも扱うのに苦勞する内容だと思うのですが、見事にディベートが行われていて正直驚きました。また先生方は、決して時間に余裕がある訳ではないにも関わらず、学生の様子や進捗状況など事細かに共有をし、全員で協力して学生と向き合っているように感じられました。そして何よりも尊敬の念を抱かずにいられないのは、ご自身も本当に楽しそうに、そして生き生きと授業をやらせていらっしゃるということです。だからこそ学生の方も、興味を絶やさず楽しく勉強ができていないかと思えます。

最後になりますが、慣れない実習でいろいろと至らぬ点ばかりで申し訳ございませんでした。広瀬先生、市川先生、阿字地先生をはじめ諸先生方の丁寧なご指導とあたたかい言葉があったからこそ、2週間充実した日々を過ごすことができ、心から感謝しています。今後は、この貴重な体験を糧とし、日々精進することで、いつかは日本語教育に携わることができたらと考えております。2週間本当にありがとうございました。



まず、今回の実習で学んだことは「学習者が言いたいことを引き出す」ということです。これまで大学で日本語教育について学び、模擬授業なども行ってきましたが、振り返ると大学で行ってきた模擬授業は学習者にこちらから与えたことを発言させるもので、学習者が本当に話したい発言を引き出すことができていなかったと思います。2週間、レベルも国籍も様々なクラスを見学させていただきましたが、どのクラスも学習者から意見が積極的に出されていました。先生が学習者に考えてもらいたいことをうまく誘導し自然な流れで日本語表現の導入、練習がされており、初めはどこまでが導入でどこからが練習なのかわからないぐらいでした。先生方の自然な流れを見ていると一見簡単そうに見えますが実際に自分が教案を作成してみると、学習者にどう言ったらうまく誘導できるのか、どのような話題が取り組みやすくうまくコミュニケーションがとれるのか、とても難しかったです。教壇実習の前は、答えてもらいたいことをうまく誘導できるか、学習者からどんな質問がくるのかなど、実際に学習者を前に授業をするのがとても不安でした。こちらから提示するのは簡単ですが学習者が言いたいことを引き出し、練習するのはとても難しいのだと実感しました。

また、見学させていただいたクラスは多国籍なクラス、中国の方のみで構成されるクラス、学習者が積極的に発言するクラス、静かなクラスなど様々でしたが、ペア練習を取り入れたり、指名する順番を工夫するなど、クラス全員が参加する雰囲気を作られていたと思いました。私自身は2回教壇実習をさせていただきましたが、特に1回目は学習者の反応などを見る余裕がなく口頭練習などで十分な練習をすることができませんでした。学習者個人の個性を把握することの大切さを感じました。

今回、授業見学と2回の教壇実習をさせていただきました。各クラスの学習者の方は日本語で積極的に話しかけてくださったり、教壇実習の際もとても協力的で意欲的に参加して下さり大変助けられました。また、学習者の方の中には日本の大学や専門学校への進学、日本で就職を目指している方も多く、日本のプレゼンスの高さを感じました。そして、そのような進学や就職を希望する学習者の進路相談を昼休みなども使って先生方が行っていて、日本語教師はただ日本語を教えるだけでなく学習者の進路や生活をサポートすることも大切な仕事であるのだと知りました。

最後に、お忙しい中授業見学をさせていただいた先生方、丁寧に教案指導をしてくださった阿字地先生に感謝申し上げます。どのように学習者を誘導し、学習者を巻き込んだ授業を組み立てることができるのか学ぶことができました。今回の実習での経験を将来、日本語教育に携わるときに活かすことができたらと思います。